

石川県創造的復興プラン

(令和6年6月27日策定)



能登が示す、ふるさとの未来

Noto, the future of country

<創造的復興リーディングプロジェクト>

取組1 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

取組2 能登サテライトキャンパス構想の推進

取組3 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり

取組4 新たな視点に立ったインフラの強靱化

取組5 自立・分散型エネルギーの活用などグリーン
イノベーションの推進

取組6 のと里山空港の拠点機能の強化

取組7 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

取組8 奥能登版デジタルライフラインの構築

取組9 能登の「祭り」の再興

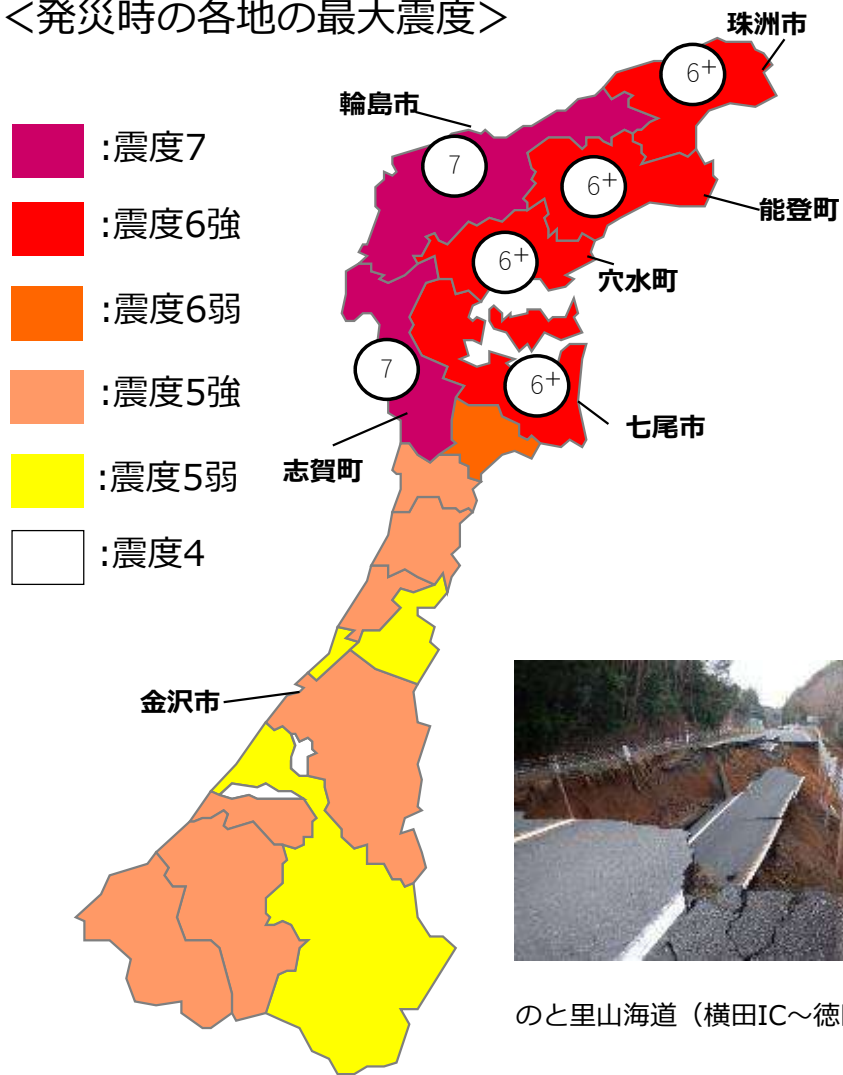
取組10 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み

取組11 能登半島国定公園のリ・デザイン

取組12 トキが舞う能登の実現

取組13 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

<発災時の各地の最大震度>



○人的・住家被害の状況

(令和6年10月15日14時時点)

死者 408人 (うち災害関連死181人)
負傷者 1,213人 (うち重傷337人)
行方不明者 3人
住家被害 88,798棟 (うち全壊 6,058棟)

○避難者の状況

【最大】約34,000人

○道路被害の状況

奥能登への**幹線道路が寸断**

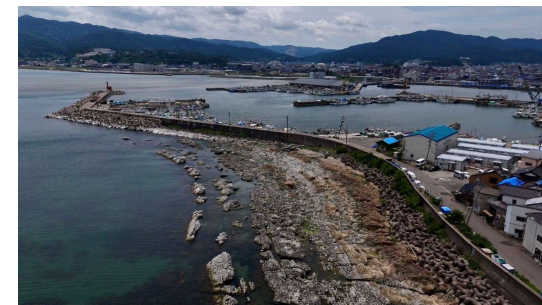
奥能登2市2町では、
最大**約3,300人**が孤立(1/8時点)



のと里山海道 (横田IC~徳田大津IC)



孤立集落への自衛隊ヘリによる支援



輪島港の海底隆起

創造的復興リーディングプロジェクト【抜粋】

取組1 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

(省略) 現在、都市と地方の双方に拠点を構える新しいライフスタイルである二地域居住の取り組みが国を挙げて動き出そうとしています。こうした流れをとらえ、能登全域さらには石川全域で、様々な形で関係人口の受け入れを推進していきます。

また、能登においては、震災により、仕事や育児、教育といった理由により、やむを得ず能登を離れ、能登と避難先での二地域居住となっている方々も多くおられることから、被災者支援としても重要な視点であり、必要な対応を検討していきます。

○ 二地域居住モデルの検討

二地域居住の実施にあたっての課題や能登地域の特性に対応した二地域居住のモデル構築に向けた検討を行い、関係人口の創出・拡大を目指します。

《 検討の視点 》

① 能登からやむを得ず転居された避難者への対応

能登からやむを得ず転居された避難者について、将来の能登への復帰も見据え、能登とのつながりを維持していくための取り組みが急務

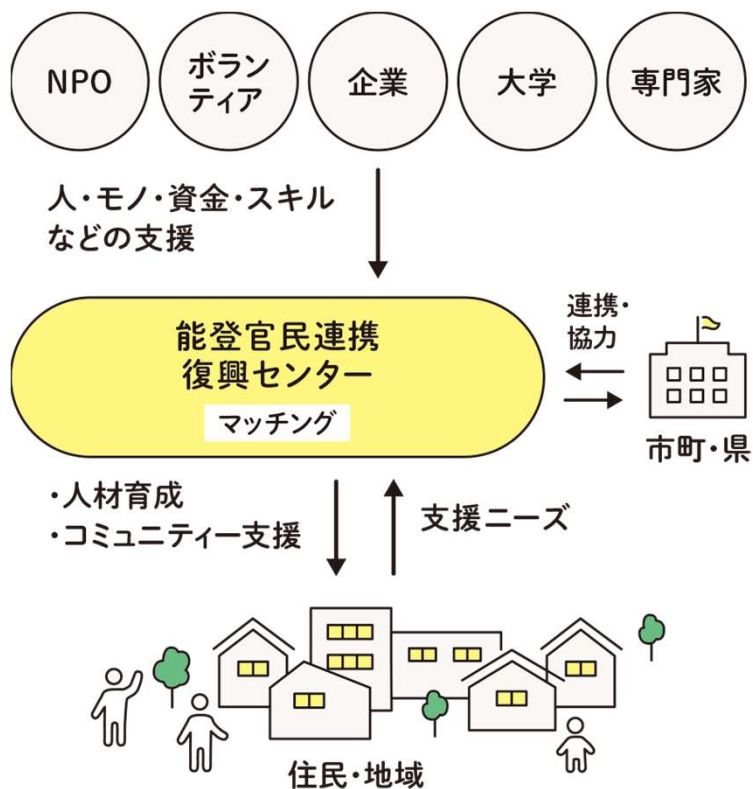
② 被災地である能登を中心とする新たな関係人口の創出

支援やボランティア等で能登を訪れる方など、能登の復興に思いを寄せ、行動される方々と新たな関係人口として、つながっていくことも重要

復興プロセスを活かした関係人口の拡大

今回の震災により人口減少のさらなる加速が懸念される能登において、震災を乗り越え、さらに地域の活力を維持向上させていくため、関係人口の拡大に向けて必要な施策を検討します。

- 能登地域の特性に対応した「二地域居住モデル」の検討
- 官民連携の「連携復興センター」の設置 など



能登サテライトキャンパス構想の推進

今回の地震により、今後、能登が防災や復興などの教育・研究フィールドとして活用されることが見込まれるため、交流人口や関係人口の増加につながるよう取り組みます。

- 復興に関わる県内外の大学生等の受入促進
- 高等教育機関と連携した復興の推進
(金沢大学「能登里山里海未来創造センター」など高等教育機関との連携)
- 学生の祭りへの参加促進 など



瓦礫撤去などの復旧作業



農作業の手伝い



金沢大学能登里山里海SDGsマイスタープログラム